

「食の安全」をどう確保するか 「食への不安」とどう向き合うか



GAP Japan2012

2012年7月18日

農業生産法人

ユニオンファーム

The business overview

新規就農者育成事業

農産物生産事業

ホビーファーマー育成事業

新規就農者及び帰農者による農業団地化プロジェクト
Ad Hoc Farm Project

研修生受入

農場研修

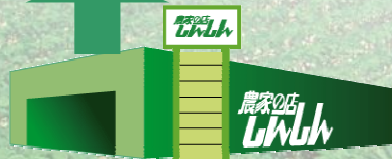
独立

第三者農業継承

低リスク就農

経営資産の散逸防止

リタイア農家紹介



有機野菜事業

米事業

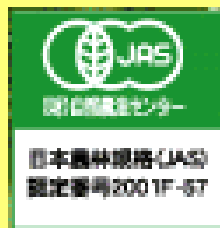
定期講座開設

農園貸出

余暇創造型農業提案

統一ブランド

大地が元気
野菜が元気 元気野菜



製販連携事業者

Profile

農業生産法人

ユニオンファーム



- (社 名) 有限会社ユニオンファーム
(住 所) 茨城県小美玉市中延
(事業概要) 1. 有機農産物の生産および販売
2. 新規就農者育成によるフランチャイズ農場の展開
3. 主食用精米・玄米および工用玄米の生産

(沿 革)

- | | |
|----------|----------------------|
| 2000年9月 | 非農家出身者で農業生産法人を設立 |
| 2001年12月 | 有機JAS認定取得 |
| 2004年10月 | フランチャイズ農場事業開始 |
| 2005年4月 | 研修受入開始
第1期研修生受入 |
| 2006年4月 | JGAP認証取得 |
| 2007年4月 | フランチャイズ農場第1号 設立 |
| 2007年10月 | 野菜成分分析開始 |
| 2009年5月 | 防除手段として天敵資材導入 |
| 2009年4月 | 水稻生産事業を開始
元気野菜塾開講 |
| 2010年5月 | 新パックハウス稼動 |
| 2011年3月 | 第7期生受入 |

ユニオンファームグループの機能分担



グループ農場 「元気野菜」の栽培



直営農場

F C農場

F C農場

F C農場

F C農場

- ・生産基準、品質基準、使用資材基準
- ・直営農場は新品目、新技術のモデル実践農場

フィールドワーク

「元気野菜」生産の栽培指導

- ・自社フィールドマンが農場を巡回し、栽培指導・計画管理指導
- ・直営農場での開発技術を水平展開

パックハウス

「元気野菜」専用予冷・包装施設

- ・直営・F Cから収穫された原料を一括して包装・梱包
- ・統一の品質基準で選別・出荷
- ・機械化により集約効率運営



- ・資材についてはグループ全体で仕入契約
- ・農業資材調達コストの低減

アイアグリ株式会社

- ・効率的な顧客創造と売上拡大

販売先

- ・幅のある品揃えの調達が可能
- ・品質のばらつきがなく納品

Profile

有機野菜部門



(農場) total 31,400m²(314a) ※2010年月現在

- ・第1農場(直営) ハウス 2,000 m² ※1999年10月設立
- ・第2農場(直営) ハウス 8,100 m² ※2000年10月設立
- ・第3農場(直営) ハウス 2,800 m² ※2004年4月設立
- ・第4農場(直営) ハウス 8,800 m² ※2005年1月設立
- ・第5農場(FC) ハウス 6,400 m² ※2007年1月設立・2007月11月増設
- ・第6農場(FC) ハウス 3,300 m² ※2008年5月設立
- ・第7農場(FC) ハウス 5,000 m² ※2009年3月設立・2010年4月増設
- ・第8農場(直営) ハウス 3,100 m² ※2009年6月設立
- ・第9農場(FC) ハウス 5,400 m² ※2010年3月設立・2011月1月増設
- ・第10農場(FC) ハウス 4,600 m² ※2011年5月設立

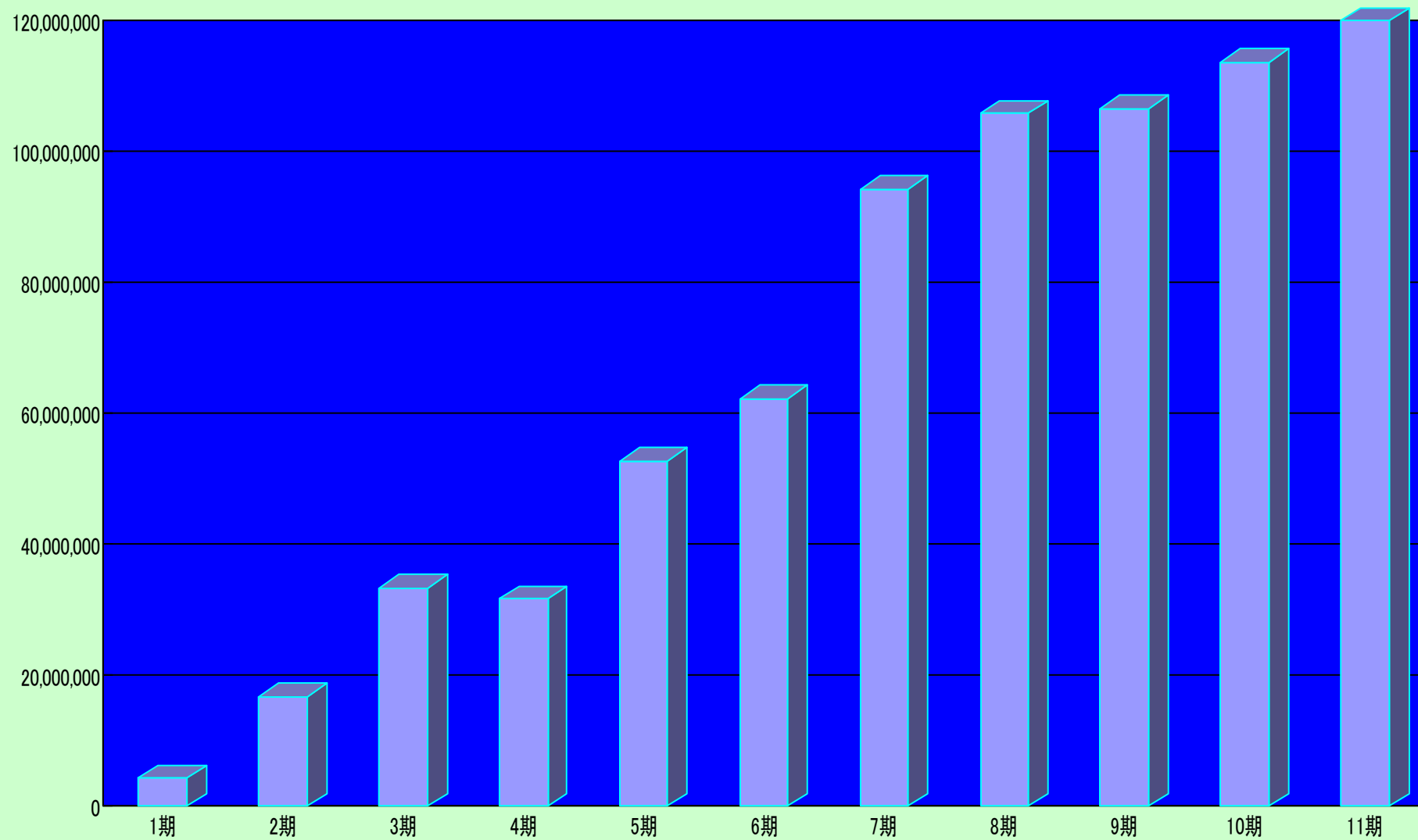
2010年までに

直営農場 24,800m²(2.5ha)・FC農場24,700m²(2.2ha)
(FC農場数 5農場)

2015年までに 10ha まで拡大

直営農場 24,800m²(2.5ha)・FC農場75,000m²(7.5ha)
(FC農場数 15農場)

売上推移(有機野菜事業)



Profile

農業生産法人

ユニオンファーム



「元気野菜」 ラインナップ

■ 通年レギュラーアイテム
水菜・小松菜・ほうれん草・チンゲンサイ

■ 季節アイテム
(春夏)
エンサイ・モロヘイヤ
グリーンリーフ(春)・ミニトマト
(秋冬)
春菊・オータムポエム
グリーンリーフ(秋)
(冬春)
レタス・春菊



※生産基準開発品目: 大玉トマト・アスパラガス・ベビーリーフ
スイートコーン



ユニオンファーム

◆水 菜

(周年供給: 6000~7000P/週)



◆チンゲンサイ

(周年供給: 3000~4000P)



◆春 菊

秋冬(10月下旬～3月下旬): 2000～3000P



◆ほうれん草

周年供給：3000～5000P



◆モロヘイヤ

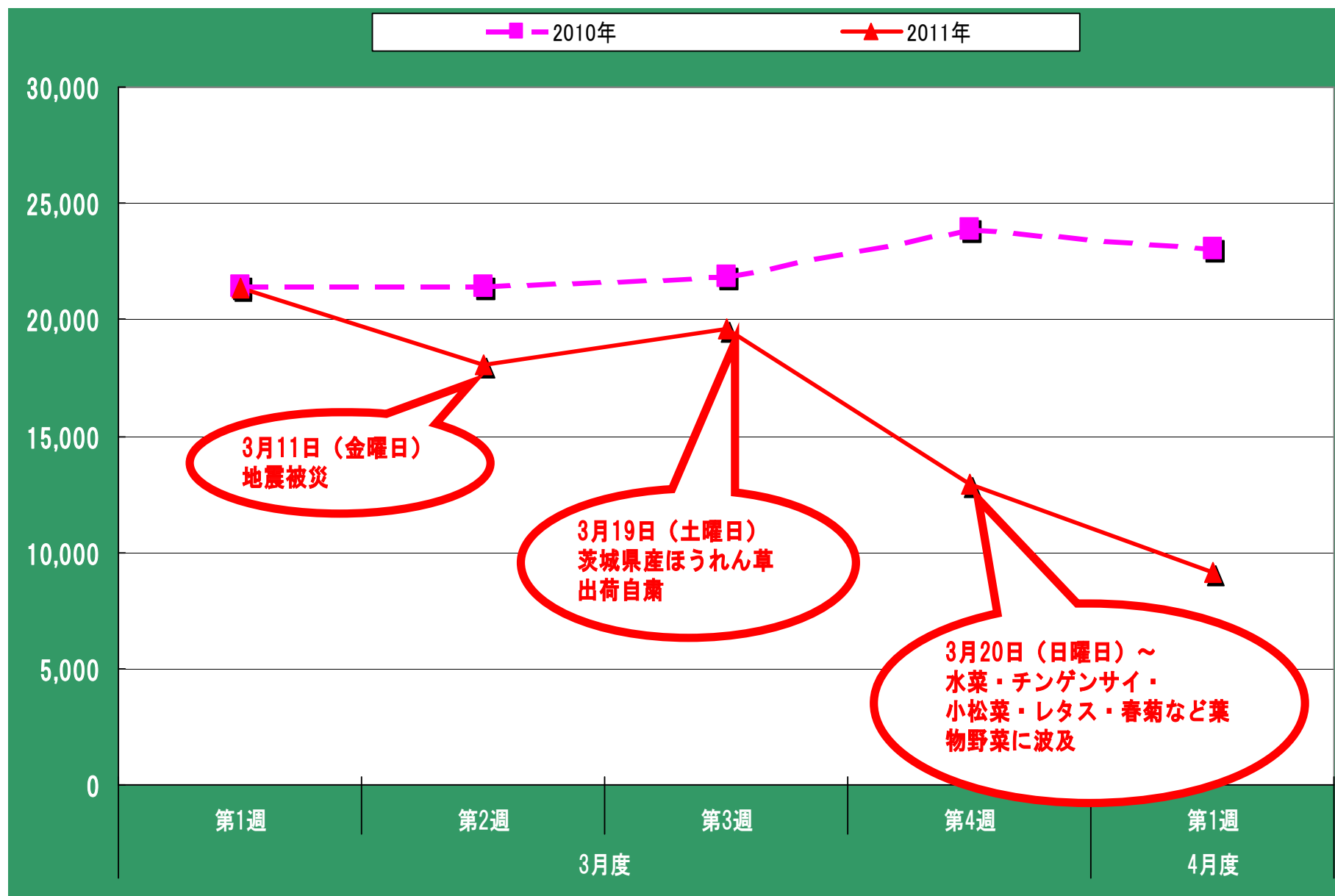
夏(7月~9月):2000~2500P

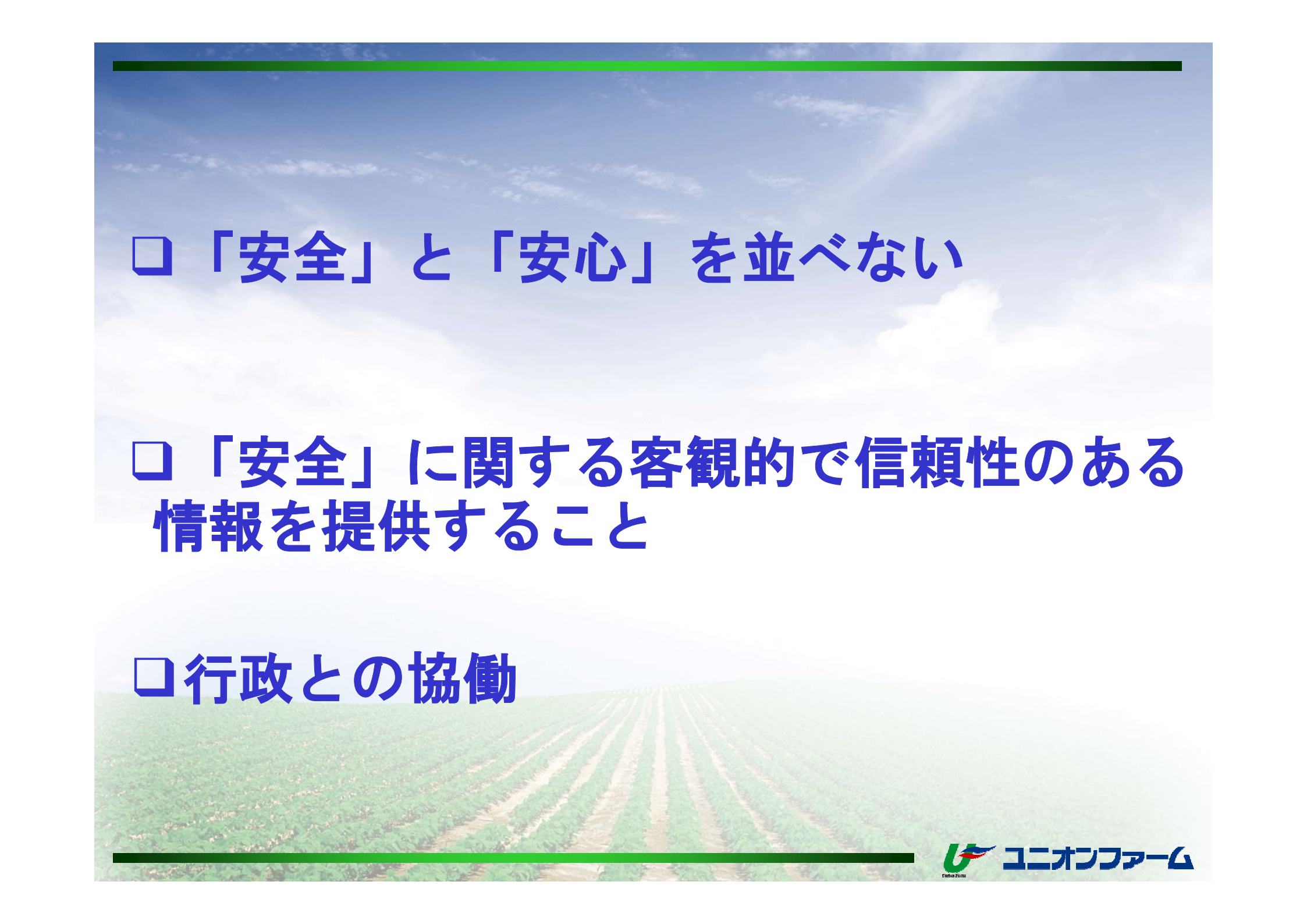


◆空芯菜(エンサイ)

夏(7月~9月):2500~3000P







□ 「安全」と「安心」を並べない

□ 「安全」に関する客観的で信頼性のある
情報を提供すること

□ 行政との協働

平素は弊社の有機野菜「元気野菜」をお取り扱いいただき、誠にありがとうございます。

このたびの東北および関東における地震災害においては、幸いながらも弊社での被害は最小限に済み、すでに通常操業をできるようになっております。しかしながら、本震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響により、弊社の「元気野菜」の主力商品としてご提供させていただいておりました「ほうれん草」につきましては、原子力災害対策特別措置法に基づき茨城県を通じての出荷停止の指示を受け、やむなく出荷停止となっております。

また、これに派生して消費者の不安が広がり、ほかの品目にも影響しているのが実情です。

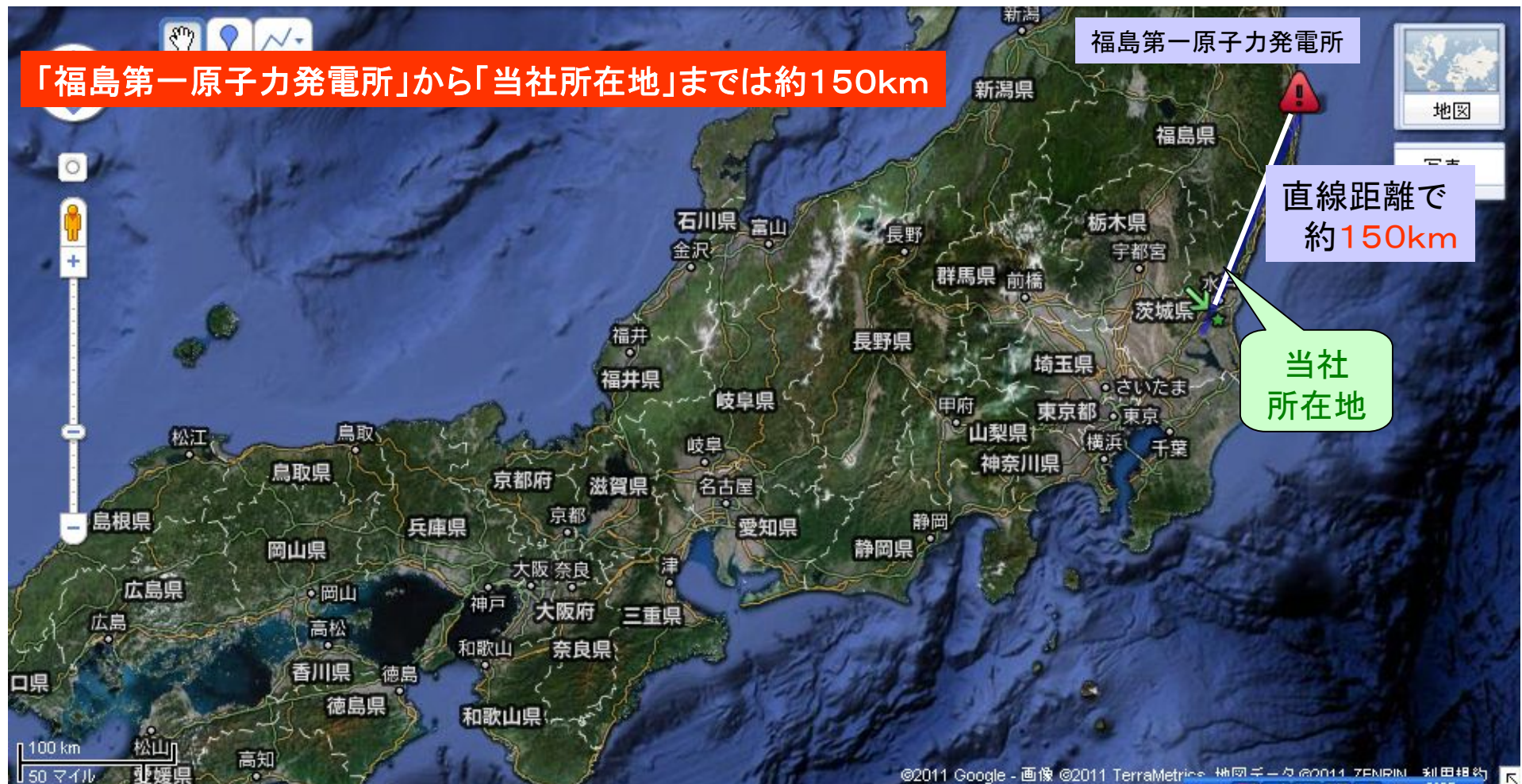
つきましては、ほうれん草を除く商品（小松菜・みず菜・チンゲンサイ・シュンギク・レタス）については、御取引先様の皆様のご理解を頂戴し、皆様を通じて消費者へのご説明により正しいご理解を促し、これまでどおりのご購入していただくことを切にお願い申し上げます。

マスコミ等により情報が錯綜する中で、正しいご理解をしていただくことが困難なことも承知しております。皆様のご理解とご活動のためにも弊社にて添付のとおり資料を取りまとめましたので、ご参考にしていただければと存じます。

何卒皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農業生産法人 有限会社ユニオンファーム
代表取締役社長 玉造 洋祐

(有)ユニオンファーム所在地と原子力発電所との位置関係



遠方の御取引先様、消費者の皆様には正確な位置関係が分からない方は
ご参考になしてください。

放射能の暫定基準値について

今回の放射性物質と食品安全については、「食品衛生法」に則った行政対応であり、厚生労働省の管轄となっております。今回の暫定規制値は、原子力安全委員会の示した指標を暫定的な規制値と定め、この値を上回る食品が見つかった場合、食品衛生法に基づき、出荷停止などを命じられます。

暫定規制値はセシウムで牛乳・乳製品が1キログラムあたり200ベクレル、野菜類、穀類、肉・卵など同500ベクレル。

放射性ヨウ素では飲料水同300ベクレル、野菜類同2千ベクレルなどとなります。

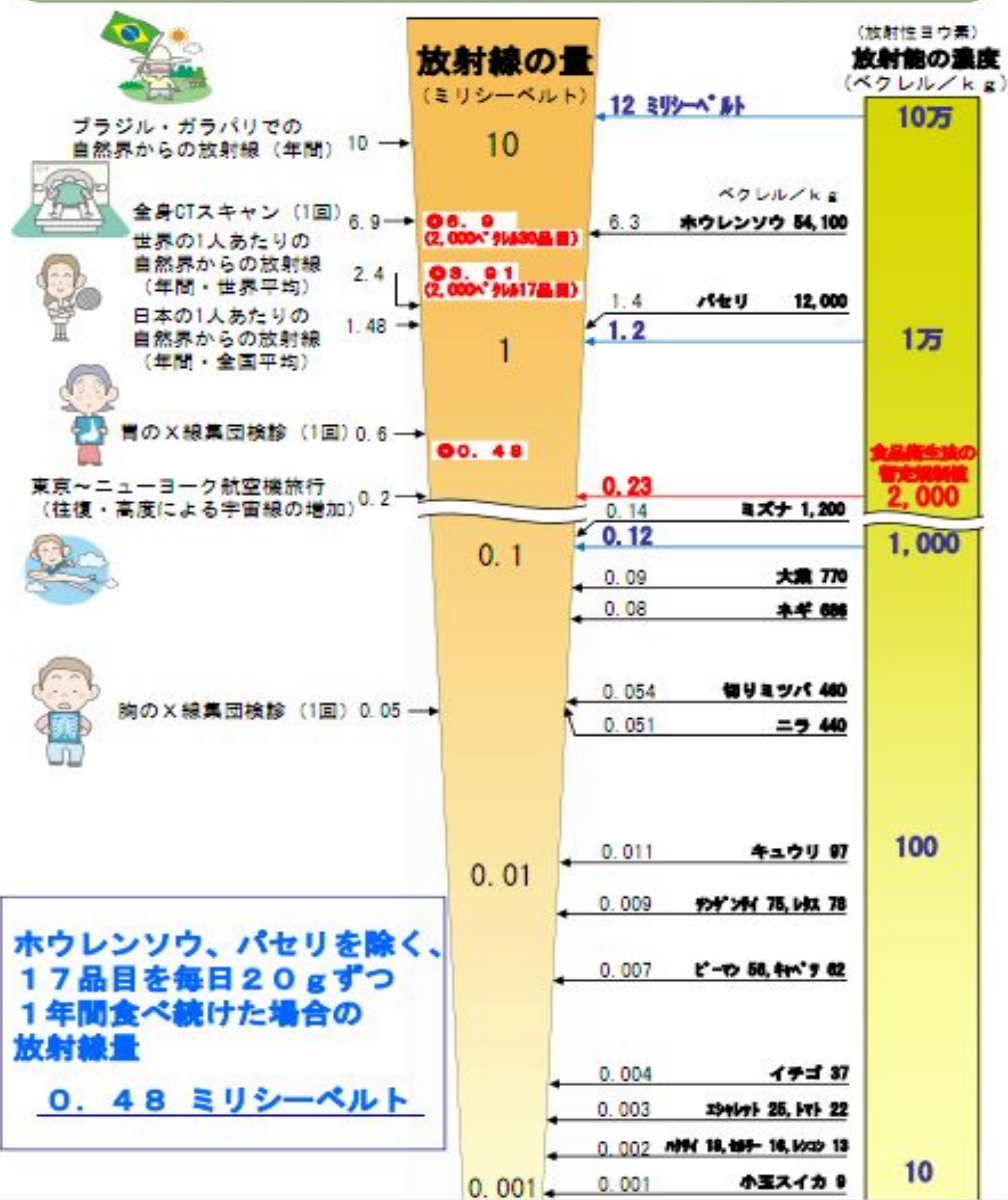
＊ ベクレル ： 国際単位系 (SI) の放射能の単位。1ベクレルは、放射性核種の崩壊数が1秒につき1であるときの放射能。記号Bq 名称はA＝H＝ベクレルにちなむ

＜参考＞食品衛生法第6条第2号(抜粋)

第6条

次に掲げる食品又は添加物は、これを販売し(不特定又は多数の者に授与する販売以外の場合を含む。以下同じ。)又は販売の用に供するために、採取し、製造し、輸入し、加工し、使用し、調理し、貯蔵し、若しくは陳列してはならない。

野菜20gを1年間食べ続けた場合の放射線量
(作物毎に現在までで最も高い濃度の場合)



今回の**暫定規制値**は極めて厳しい基準といわれております。

「暫定」であることからあらゆる想定を超える場合でも国民の健康に悪影響が及ばないようにしているためです。

「出荷は停止してください。しかし、直ちに健康に影響がありません。」と表現がされる理由はここにあります。

具体的には左の図がわかりやすく説明しています。

したがって、暫定規制値を超えたもの（茨城県においては「ほうれん草」と「パセリ」）は健康には悪影響を及ぼさないものの法律上は出荷を規制するという対応が現在の状況ですので、ほかの品目についてはさらに低い数値となっているため、安心して召し上がっていただくことができます。

すでに、より正確に検討をし、正しい規制値を定めるために有識者による検討が始まっております。

茨城県産野菜の検査結果で暫定規制値を超過したもの

※検査結果は茨城県HPより引用

赤字は暫定規制値超過

「－」は検出せず



すでに政府の指示により茨城県産のほうれん草(露地・ハウス)およびパセリについては産地からの出荷が停止しております。

茨城県産野菜の検査結果で暫定規制値を下回っているもの

※検査結果は茨城県HPより引用(3/22現在)

赤字は暫定規制値超過

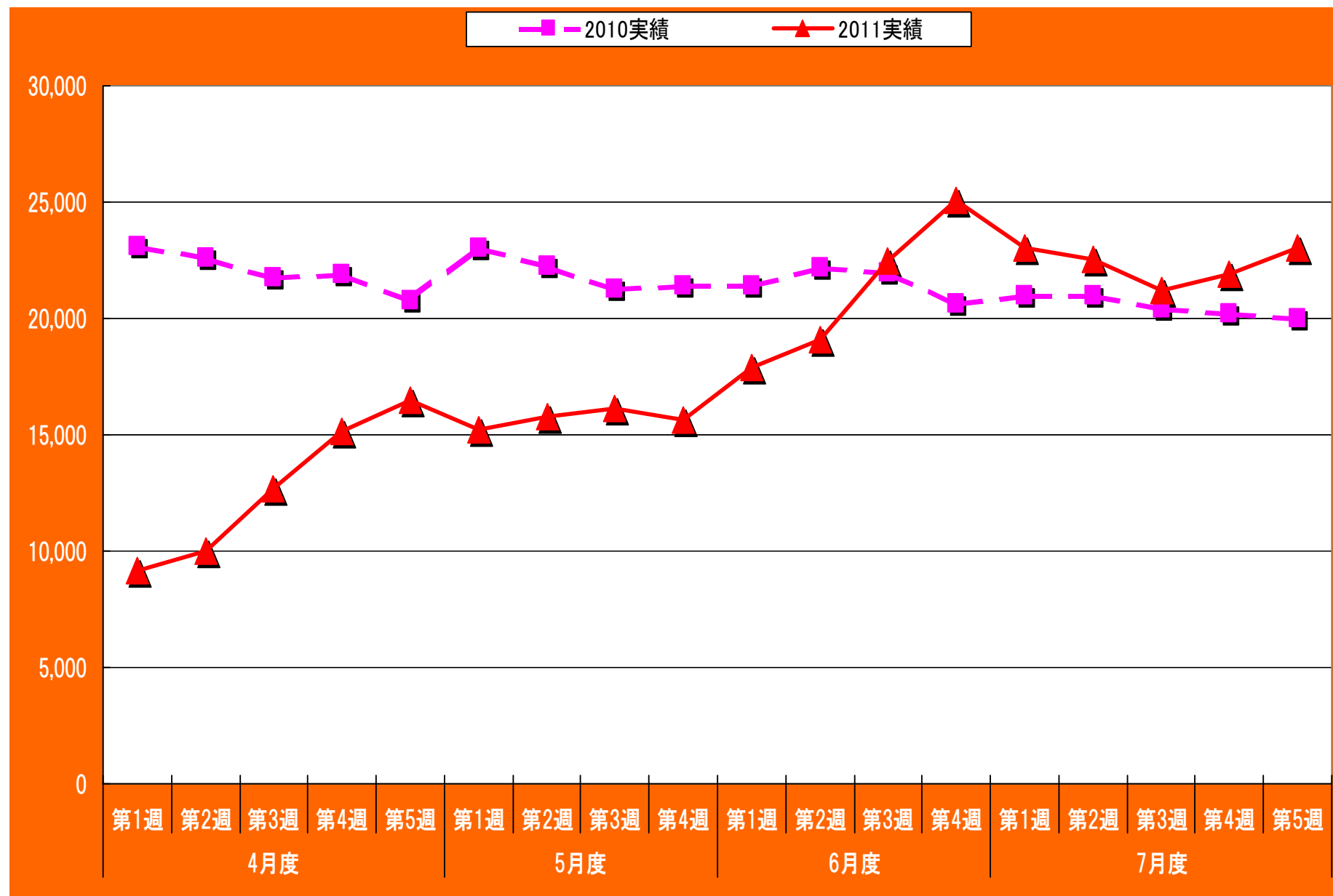
「－」は検出せず



ほうれん草と同じ葉菜類でもハウスものを中心に暫定規制値を下回っている。原発に近い地域であっても、実物や外葉を剥く葉物でも同様に低い数値がでている。

今回、添付いたしました資料の根拠は、多くが茨城県農林水産部にて調査、公表されているものです。

皆様の社内でのご理解やお客様へのご説明に必要である場合には、当方にて必要部数の印刷をし、無償にて提供いたします。
ご遠慮なくご要望いただきますようお願い申し上げます。





ユニオンファームは

- 日本の農業の未来を創造します
- 地域への貢献を積極的行います
- 農業の近代化をめざします
- 伝統を重んじながら革新を推進します